

連載

短期集中C型のツボ

みんなで考えよう well-being ③

TRAPE 代表 CWD/作業療法士 鎌田 大啓

ともひろ
鎌田 大啓

ており、介護予防の視点が軸となっていました。介護予防とは、要介護状態にならないよう、状態の改善・悪化防止をするといふことで、1人ひとりの高齢者が自分らしいウェルビーイングな日常生活を手にすることを実現させることでした。

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活が送りにくくなった場合に、介護予防・生活支援サービス常生活が送りにくくなつた場合に、介護予防・生活支援サービス常生活支援事業は「介護予防・日常生活支援総合事業」「包括的支援事業」「任意事業」で成り立つ

業には大きく「訪問型サービス」「通所型サービス」などがあります。介護保険で介護事業所による今まで通りの一的なサービスだけでは介護予防は難しいと分かってきたことから、高齢者の状況に柔軟に対応する「訪問型・通所型」の多様なサービスが考えられたのです。

具体的には緩和した基準による「サービスA」、住民主体による支援である「サービスB」、専門職が短期集中的に関わる「サービスC」などが国からモデルとして示されました。

短期集中サービスは介護予防の一丁目一番地

この短期集中サービスを実施しているのでしょうか。2019年度の厚生労働省調査によれば、19年3月時点の実施率は「訪問型サービスC」23・2%、「通所型サービスC」40・4%となっており、まだ多くの自治体で未実施状態となっています。

自治体からは「実際サービス利用する利用者が少ない」「必要性が浸透しない」などの声も聞かれています。

だからこそ高齢者の方のモチベーションを重要視したプログラム「デザイン」が大切なのです。

サービス作りだと捉え直し、関係者間で対話を重ね、イメージを膨らませていくことが重要なので

孤独

役割・つながり喪失
自信の低下



well-being

役割
自信



well-being

役割・つながり
自信・社会的スキル



短期集中予防サービス（サービスC）
リエイブルメント

多様なサービスで
効果的な介護予防を
地域支援事業は「介護予防・日常生活支援総合事業」「包括的支援事業」「任意事業」で成り立つ

事務が送りにくくなつた場合に、介護予防・生活支援サービス常生活が送りにくくなつた場合に、介護予防・生活支援サービス常生活支援事業は「介護予防・日常生活支援総合事業」「包括的支援事業」「任意事業」で成り立つ

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活を手にすることを実現させることでした。

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活を手にすることを実現させることでした。

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活を手にすることを実現させることでした。

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活を手にすることを実現させることでした。

だから直接高齢者に介護予防・生活支援サービスを提供する「総合事業」の在り方は特に重要視されています。何かしらの事情で自分らしい日常生活を手にすることを実現させることでした。

「短期集中サービス」は自分らしい日常を再び手にする最良の手段

体では、今まで実施してきた三次予防事業の延長として捉えていて「三次予防プログラム」に参加して効果がみられても、プログラムが終了すると再び活動性の低い生活に戻り、介護予防効果が継続しない」というイメージを関係者が持っていることがあります。

二次予防事業における「腔・栄養・運動へのアプローチは非常に重要です。そして主役は高齢者であり、専門職ではありません。短期集中サービスの対象となっている方々は日常生活の役割・つながりなどを喪失してたり、自信・社会的スキルなどが低下してたりする可能性が高いわけで

す。

©TRAPE